

テーマ: 自然

要町保育園(豊島区)

テーマを設定する

日頃より、水と砂を混ぜた遊びに興味を持ち楽しんできた。園全体でも3、4、5歳児クラスが「どろんこあそび」の日として泥遊びを思い切り楽しめるように設定している。併せて身体を使って遊ぶことへの関心が強く全身を使ってイメージ等、表現をすることへの楽しさが広がっていたため、アーティストの方と一緒に行うことでさらに興味関心を高めたいと思い設定した。昨年度に引き続き土粘土を使い継続的に自然と触れ合い興味関心を広げていくためテーマを自然とする。

活動 アーティストワークショップ1~4

土粘土を持ち上げたり、こねたり、丸めたり、また、園庭で地面に寝転んだり、絵を描いたりするなかで、土、砂、石などのそれぞれの感触や重さ、見た目の違いを楽しんだ。

環境をデザインする

- 準備した物 土粘土、養生シート他
- ホール全体を養生シートで覆い、躊躇なく活動できる環境を整えた

探究活動を実践する

●活動内容(4日目)

- 1.外部講師の動きを真似て身体を動かす。アシスタントが演奏する三味線の音が止まったら自由なポーズでストップ。
- 2.粘土の活動スタート。思い思いに好きなものを作るなどして遊ぶ
- 3.他のお友達が作ったものに触らない、壊さないルールで見て回る。
- 4.みんなが見守るなか、一人ずつ粘土のベッドに寝転がりポーズをとる
- 5.きりん組(5歳児)が入室して粘土の作品を見て回る
- 6.きりん組が見守るなか、ばんび組(4歳児)が2~3人1組になって、三味線の音に合わせて粘土作品の間を回遊し、最後にベッドでポーズする動きを披露

※1日目はアーティストの方と音楽に合わせて表現することを楽しみ、実際に土粘土に触り感触を楽しんだ。2日目は同テーマに基づき別内容で造形ワークショップを実施。3日目は園庭に裸足で出て、地面に寝転ぶ、砂場を転がるなど自由に楽しんだ後、落ち葉を拾って観察し、それをホールの床に配置して、踊った。

●子供たちの様子

- ・粘土にのって足で踏んだり、全体重をかけて丸めたり、大きくて重たい粘土の塊に全身で挑む姿がみられた。
- ・粘土のひんやりしっとりとした感触を「きもちいい」と味わっていた

活動スケジュール(4歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師:北川結(ダンサー・振付家・イラストレーター)他2名	R7.9.4 (金)	60分程度	14人
② アーティストワークショップ2 講師:水内貴英(美術家)	R7.9.30 (火)	65分程度	14人
③ アーティストワークショップ3 講師:北川結(ダンサー・振付家・イラストレーター)他2名	R7.11.17 (月)	60分程度	14人
④ アーティストワークショップ4 講師:北川結(ダンサー・振付家・イラストレーター)他2名	R7.12.9 (火)	60分程度	15人
⑤ 日々の遊びの中で、粘土・土粘土コーナー遊び	月2回程度	45分程度	5,6人
⑥ ホールを養生し、全身での土粘土遊び	R8.3.19 (木)	60分程度	13人



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

十分な量の土粘土が用意されたことで、子どもたちが思い思いに自分の活動に集中することが出来ていた。また、大人であれば最初から「何を作ろうか」と考えるとところだが、子供たちが目的を持たずに粘土と向き合い、その感触を楽しむ中で、好奇心や創作意欲を掻き立てられている様子が見て取れた。3回に渡って活動を重ねたことで、表現することに対しても恥ずかしい気持ちよりも、楽しさが勝り、やってみようと挑戦する姿が見られた。